2024年度 春季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書

学童で子どもたちと遊んだとき

給食配り

フードバンクで食品の包装

1. 参加目的

アメリカでホームレスの方々に食事を配ったり、子どもたちと遊んだりするボランティア活動を行いました。先進国というイメージのあるアメリカでも、経済的に厳しい生活を送っている人々が多く、実際に目の当たりにすることで貧富の差を強く実感しました。特に、ホームレスの方々が公園で過ごす姿や、生活に必要なものを求めている様子を見て、社会的支援の重要性を痛感しました。また、子どもたちと遊ぶ中で、未来を担う彼らの健全な成長を支えることが社会全体の責任であると感じました。この活動を通じて、社会の一員としての責任を考え、助け合いの精神や、少しでも誰かの力になれることの大切さを学びました。今後は、自分も積極的に社会貢献活動に参加したいと思います。

2. ボランティア実習内容について

今回のボランティア活動では、サンフランシスコにある「グライド教会」でホームレスの方々に食事を配る活動を行いました。この活動を通じて、経済的に困難な状況にある人々と直接触れ合い、その日常生活の一端を知ることができました。また、「フードバンク」では、缶詰やシリアルなどの食品を箱に詰めたり、野菜を分けて配る作業にも参加しました。ここでは、効率的に物資を配る方法や、支援を必要としている人々への届け方について学びました。さらに、「ボーイズ・アンド・ガールズ・クラブ」では、放課後に親を待つ子どもたちと遊び、一緒に楽しい時間を過ごしました。子どもたちの笑顔に触れることで、心温まる体験をすることができました。

3. プログラムを通して学んだこと

サンフランシスコでボランティア活動を行う中で、想像以上に多くの薬物中毒者がいることに驚きました。特にそのすぐ近くを小さな子どもたちが通る光景を目の当たりにし、この問題がどれほど深刻であるかを実感しました。薬物中毒者が集まる場所は、住宅街や公園近くにもあり、子どもたちが危険な状況に晒されていることに心を痛めました。これらの現実を目の前にして、ただ支援を行うだけでは不十分で、地域社会を守るための法整備が急務であると強く感じました。この経験を通じて、今後自分が社会に対してどう貢献できるかを深く考えるようになりました。安全で健全な社会を築くためには、法と教育、そして地域の協力が不可欠だと感じました。子供達が安全なところで気軽に遊べる環境を作らないといけないと感じました。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

ボランティア活動を終えた後、心に残ったのは、助けを必要としている人々に少しでも寄り添えたという充実感でした。初めは自分にできることが本当にあるのか不安を感じていましたが、実際に活動を始めると、その不安は次第に自信に変わり、感謝の言葉や笑顔に触れることができました。特に、支援を受けた方々が心から感謝してくれる様子を見て、人々の助け合いがどれほど大切なものであるか、そしてその瞬間に自分が少しでも誰かの力になれたことを実感しました。これらの経験を通じて、単に物理的な支援だけではなく、心からの温かさを伝えることの重要性も学びました。この経験は私にとって非常に大きな学びとなり、今後はこの経験を活かして、もっと積極的に社会に貢献できる人になりたいと思うようになりました。困っている人々に手を差し伸べ、彼らが少しでも笑顔を取り戻せるよう、今後も自分の力を最大限に活かしていきたいと強く感じました。